

第 2 期

千 葉 県

地 方 創 生

総 合 戦 略

概要版

千葉県



## はじめに



本県においても今後は、いよいよ人口が減少していくことが見込まれており、経済の縮小や医療・福祉人材の不足、都市や集落の機能低下など、様々な影響が懸念されます。

このような状況の中、急激な人口減少を和らげ、地域経済の活性化を図るとともに、持続可能な地域社会を確立するためには、市町村、県民の皆様、企業や団体の方々と一丸となって、取組を進める必要があります。

そこで、千葉ならではの地方創生を確実に実現・深化させていくため、この度、第2期千葉県地方創生総合戦略を策定いたしました。

本県は、東京圏に位置し、豊かな自然環境や魅力的な観光地、優れた都市機能とともに、成田空港や東京湾アクアラインといった世界に誇れる社会基盤、農林水産業・商工業などバランスのとれた産業構造を有するなど、様々な宝に溢れています。

第2期戦略では、こうした宝を最大限に活用することにより、千葉県という空間全体で、人々の求める「働く場」や「子育ての場」、「住まいの場」、「憩いの場」を提供できる「総合力の高さ」を本県の「強み」とし、経済活性化や子育てしやすい社会づくり、誰もが安心して暮らせる地域づくりなどを進めることとしています。

また、人口減少社会においては、各産業や地域社会を支える人材の確保・育成が必要であり、そのためには、人々が住み働き続けていける魅力ある雇用の場の創出が不可欠であることから、「千葉の人と仕事づくり」を地方創生における各分野を横断する目標として掲げ、取り組んでまいります。

県民の皆様が「千葉で生まれて、住んで、働いてよかった」と誇れるような「暮らし満足度日本一」の千葉をみんなでつくり上げ、光り輝く千葉をしっかりと次の世代に引き継いでまいりましょう。

令和2年11月

千葉県知事

森田 健作



# 第2期千葉県地方創生総合戦略 概要

人口減少社会においても、すべての県民が満足して暮らしていくことができるよう、急激な人口減少を和らげ、地域経済の活性化を図るとともに、持続可能な地域社会を確立していくため、令和6年度までの施策の基本的方向等を定める「第2期千葉県地方創生総合戦略」を策定しました。

第2期地方創生総合戦略は、本県における人口の中長期的な展望等を踏まえ、地方創生に向けた将来像を提示する「人口ビジョン」と、令和6年度までに取り組む目標や施策を定める「総合戦略」で構成されています。

## 人口ビジョン

### 千葉県を取り巻く現状等

総人口及び人口動態  
就業や産業等の状況

### 千葉県における長期的な展望

人口の将来見通し  
地方創生に向けた将来の基本方向

**誰もが希望を持って  
地域に住み働ける千葉の実現**

～次世代を牽引する千葉づくり～

**親子の笑顔が溢れる  
千葉の実現**

～少子化への挑戦～

**オール千葉で支え合う  
安全・安心に暮らせる  
千葉の実現**

～人口減少に対応した県づくり～

## 総合戦略

### 【横断的な目標】

**復興・回復と更なる発展に向けた  
力強い千葉の人と仕事づくり**

#### 【基本目標1】

地域経済の好循環を生み出す  
環境づくり

#### 【基本目標2】

県内外に発信する魅力づくり

#### 【基本目標3】

子育てしやすい社会づくり

#### 【基本目標4】

誰もが安心して暮らせる  
地域づくり

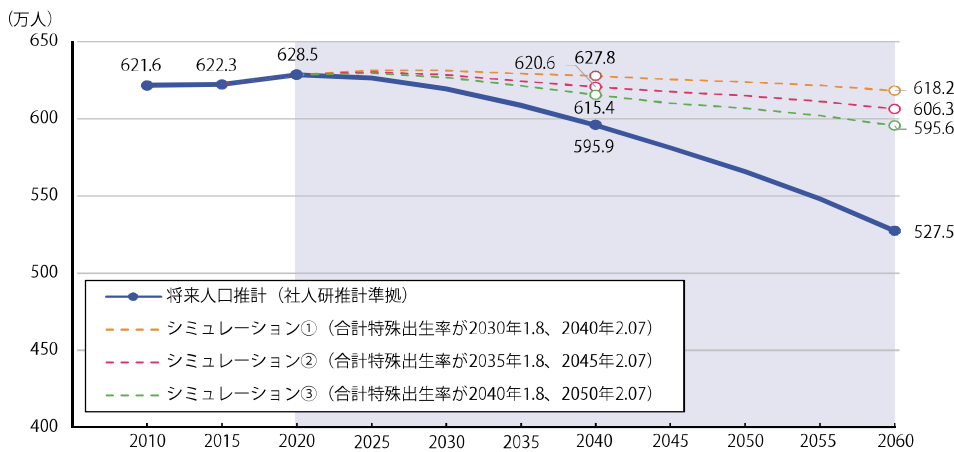
# 【千葉県の将来人口】

このままだと2060年には…



## 人口減少が進んでいきます…

本県の将来人口の試算結果(国の長期ビジョン及び内閣府提供の「手引き」等に基づき試算)



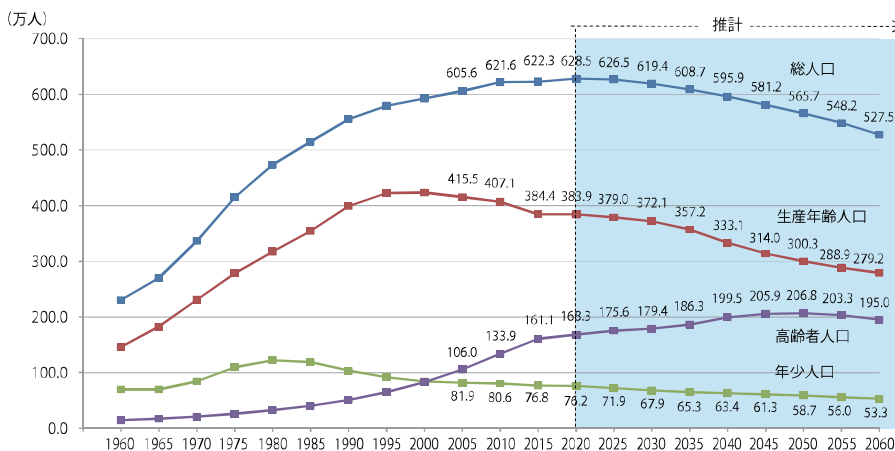
資料：2010年及び2015年は総務省「国勢調査」。2020年は「千葉県毎月常住人口調査」(6月1日現在)。  
2040年及び2060年の将来人口推計及び各年のシミュレーション結果は、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠し、2020年までの人口の動向を踏まえ、内閣府提供資料を用いて試算。

千葉県の総人口は、2060年には527万人と、2020年より約100万人減少すると見込まれています。



## 高齢化がさらに進行

総人口及び年齢3区分別人口の推移



資料：1960～2015年は総務省「国勢調査」。2020年は「千葉県毎月常住人口調査」(6月1日現在)の人口を「千葉県年齢別・町字別人口」(平成31年4月1日現在)の年齢別人口比率を用いて按分し算出。2025～2060年は、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠し、2020年までの人口の動向を踏まえ、内閣府提供資料を用いて試算。  
(端数処理の関係で、3区分の和が、総人口に一致しないことがある。)

生産年齢人口と年少人口は今後も減少していく一方、高齢者人口は2050年頃まで増加が続きます。

※生産年齢人口 … 15歳から64歳  
年少人口 …… 14歳以下  
高齢者人口 …… 65歳以上

# 人口減少が将来に与える影響

人口減少や人口構成の変化によって、様々な分野で影響が生じることが考えられます。

## 地域社会・インフラ

- ・都市や集落の機能低下
- ・道路、上下水道など既存インフラの維持の困難化
- ・地域公共交通の縮小
- ・日常の買い物や医療など生活に不可欠なサービスの維持の困難化
- ・空き家、空き店舗の増加

## 経済・雇用

- ・地域経済の縮小
- ・生産年齢人口の減少に伴う労働力不足
- ・従業員の年齢構成のアンバランス化による円滑な技能継承の阻害
- ・後継者不足による事業承継の困難化

## 農林水産業

- ・担い手の高齢化と後継者不足
- ・耕作放棄地の増加
- ・管理が困難な森林の増加

## 医療・福祉

- ・現役世代における社会保障関連経費の負担増加
- ・医療、福祉、介護人材の不足

## 教育

- ・子どもたちが規範意識やコミュニケーション能力を身につける機会の減少
- ・学校存続の困難化

## 地方創生に向けた将来の基本方向

### 千葉が果たすべき「役割」

- ・東京圏の一員として、日本の成長のエンジンであり続ける
- ・若い世代の結婚や出産、子育ての希望がかなう環境を実現する
- ・人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応する
- ・日本のみならず世界をリードする「国際都市」へ発展する

### 千葉の「強み」

本県の持つ「宝」

- |         |                    |         |
|---------|--------------------|---------|
| 豊かな自然環境 | 魅力的な観光地            | 優れた都市機能 |
| 優れた社会基盤 | ハイレベルでバランスの取れた産業構造 |         |

これらの「宝」を磨き上げ、最大限に活用することにより、人々の求める、様々な価値観に対応した「働く場」「子育ての場」「住まいの場」「憩いの場」を、千葉県という空間で提供することが可能。

この「総合力の高さ」こそが千葉県の強み

「強み」を生かし、「役割」をしっかりと果たすことにより

人口減少の緩和

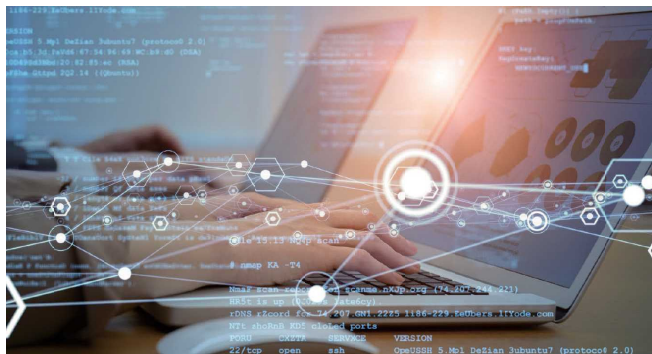
地域の活性化

人口減少社会における持続可能なまちづくり

を実現します。

# 本県が目指すべき将来像

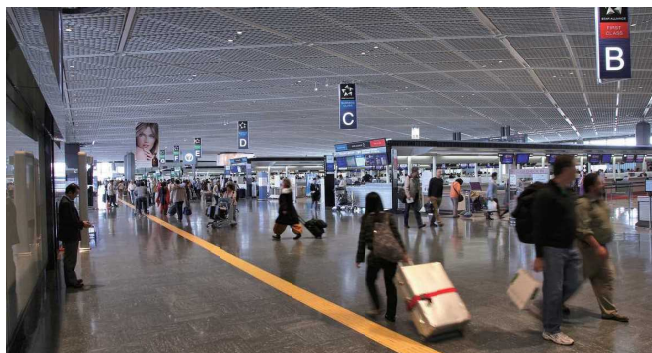
誰もが希望を持って地域に住み働ける千葉の実現  
～次世代を牽引する千葉づくり～



●AI・IoTやドローンなど先端技術の利活用が進み、多種多様なサービスが普及することにより、県民の生活利便性が高まるだけでなく、県内の自治体や企業等において生産性が向上しています。



●5Gなどの本格運用を皮切りに、通信の高速化・大容量化が進むことで、テレワークの普及とともに、副業・兼業に関する環境づくりの進展により、海や里山など自然豊かな本県への移住等が進んでいます。



●県内道路ネットワークの整備進展や、我が国の空の表玄関である成田空港の更なる機能強化等が進むことにより、生活利便性が一層高まるとともに、本県ひいては日本経済が一層活発化しています。



●東京2020オリンピック・パラリンピック開催効果の波及などを通じ、製造業や農林水産業等に加え、観光・宿泊業や飲食業などの地域産業が、県経済を支える主軸の一つとして、さらなる成長を遂げています。



## 親子の笑顔が溢れる千葉の実現 ～少子化への挑戦～

●子ども一人ひとりを地域全体で大切に育むという意識が浸透し、誰もが結婚・妊娠・出産・子育てなどに係る希望をかなえることのできる地域社会が実現しています。

●誰もがそれぞれの希望に沿って、子育てや仕事、趣味、健康づくりや地域活動等のバランスが取れたライフスタイルを実践しやすい環境が実現しています。

オール千葉で支え合う安全・安心に  
暮らせる千葉の実現

## ～人口減少に対応した県づくり～

●県と市町村・国・民間等との連携強化や各種インフラの強靱化、医療提供体制の充実等により、産業・生活基盤が災害に強くなり、あらゆる世代が安全・安心に暮らし、活躍できる社会が実現しています。

●人生100年時代の到来により、高齢になっても仕事や趣味などを楽みつつ、住み慣れた地域で互いに支え合いながら、安心して暮らし続けることのできる地域社会が実現しています。

●令和元年房総半島台風や令和元年10月25日の大雨などによる被害、更には新型コロナウイルスの感染拡大による影響からの復興・回復を遂げています。

●自主防犯団体や防犯パトロールなど、行政や学校、県民、事業者等の取組や連携が充実することにより、地域の防犯力が向上し、人々が安全で安心して暮らせる環境が整っています。

●ICT等の進展に伴い、遠隔医療など在宅医療の高度化、安全性の高い自動運転技術やMaaS(Mobility as a Service)の普及により、今まで以上に安全・快適な生活環境が実現しています。

# 復興・回復と 更なる発展に向けた 力強い千葉の人と仕事づくり

人口減少や少子高齢化に伴い、本県が誇る商工業や農林水産業などの産業や、医療・福祉・介護分野など県民生活を支える分野において人材が既に不足している状況です。

また、本県の生産年齢人口については、今後とも減少していく見込みであるとともに、令和元年房総半島台風等の災害や、新型コロナウイルスの感染拡大により中小企業や農林水産業などでは、事業継続を断念する者の増加が懸念される状況にあります。

こうした中、将来にわたって活力ある千葉を維持していくためには、若者等の東京流出に歯止めをかけるとともに、女性や高齢者、障害のある人、外国人など、多様な人々の県内での就労や定住を促進し、商工業や農林水産業、医療・福祉・介護や保育分野などにおいて、人材の確保や資質の向上など、活力ある千葉を支えるための人づくりに取り組むことが必要です。

あわせて、若者をはじめとした多様な人々が本県に定住し、それぞれの希望に応じて誰もが活躍できるよう、県内各地に魅力ある雇用の場を創出することが不可欠です。

このため「千葉の人と仕事づくり」を地方創生における各分野を横断する目標として掲げ、取り組みます。



## 基本目標 1

# 地域経済の 好循環を生み出す 環境づくり



産業の振興や新たな雇用の場を創出することで、人々は住み続け、多くの人が転入することにより地域経済は活性化するという更なる好循環を生み出すこととなります。

このため、本県の地理的優位性(東京への近接性、豊かな自然環境等)、優れた社会基盤(成田空港、千葉港、アクアライン、圏央道等)、バランスのとれた産業(全国上位に位置する農業、水産業、工業、商業)をそれぞれの地域で生かすことで、各産業の振興を図り、若者をはじめあらゆる世代に選ばれる魅力的な雇用の場を創出します。

また、人口減少や少子高齢化の進展とともに、風水害や地震など年々激甚化する傾向にある自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大なども地域経済に影響を与える中、本県産業が持続的に発展するよう、商工業の経営基盤や農林水産業の生産基盤等の強化を図るとともに、将来を支える産業人材の確保・育成を着実に進めます。

### 【数値目標】



県内製造品出荷額等

13兆1,432億円  
(2018年)



県内年間商品販売額

12兆5,632億円  
(2016年)

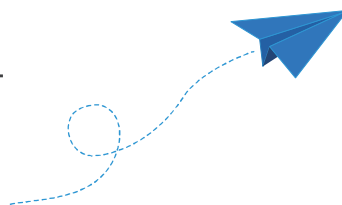


農業産出額

4,259億円  
(2018年)



増加を目指す  
(2024年)





# 1 地域の特성에応じた戦略的な企業誘致の推進

- ・成田空港・アクアライン・圏央道・千葉港等を活用した企業誘致の推進
- ・新たな産業用地の確保
- ・空き公共施設等を活用した企業誘致の推進

# 3 未来を支える新産業等の振興

- ・中小企業の技術開発や生産性向上等の促進
- ・新産業の振興
- ・新エネルギー等の利活用、導入促進



中小企業等の研究開発などを総合的に支援する東葛テクノプラザ

# 5 中小企業の活性化支援

- ・中小企業の経営基盤強化
- ・中小企業等の人材確保
- ・事業承継の推進
- ・産業人材の育成支援
- ・働き方改革の推進

# 7 地域と空港の発展が好循環する地域づくり、交通ネットワーク・アクセスの強化

- ・成田空港を支える人材の確保を起点とした地域づくり
- ・更なる機能強化を見据えた成田空港の利活用の促進と人・モノの流れの取り込み
- ・交通ネットワークの強化・充実



成田国際空港(提供:成田国際空港株式会社)

# 2 力強い農林水産業の確立

- ・農林水産業を支える多様な担い手の確保・育成
- ・力強い産地づくり
- ・生産基盤の充実強化と施設等の保全管理
- ・県産農林水産物の販売促進と高付加価値化の推進
- ・耕作放棄地の発生防止・解消及び有害鳥獣被害対策の強化
- ・試験研究の充実
- ・環境や資源に配慮した農林水産業の推進



ちばの農林水産物

# 4 京葉臨海コンビナートの競争力強化

- ・京葉臨海コンビナートの生産性向上や事業環境の改善
- ・コンビナートを支える人材の能力向上や担い手の育成

# 6 地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進

- ・商店街の活性化支援
- ・地域資源の活用、ブランド化の推進
- ・起業・創業の支援

# 8 主要都市間の交通アクセス整備

- ・圏央道などの高規格幹線道路等の整備促進
- ・アクアラインの料金引下げの継続
- ・国道・県道のバイパス・現道拡幅等の整備推進



東京湾アクアライン

# 県内外に発信する 魅力づくり



人口の減少が見込まれるとともに、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により人の流れが停滞する中、地域の活力を高めていくためには、本県の優れた地域資源を活用して移住・定住の促進や交流人口の増加を図ることが重要です。

このため、各地域が持つ資源を徹底的に洗い出し、日本人のみならず、日本を訪れる外国人の視点からも魅力のあるものに磨き上げるとともに、国内外の誰もが安全で安心して過ごしやすい環境づくりを進めます。

また、こうして作り上げた「魅力の宝庫ちば」を国内外に積極的に発信し、人々が集う魅力あふれる千葉の実現を目指します。

## 【数値目標】



人口の社会増

17,187人  
(2019年)

▲  
増加を目指す  
(2024年)



観光入込客数

1億8,683万人  
(2018年)

▲  
2億400万人  
(2024年)



外国人延宿泊数

4,798千人泊  
(2019年)

▲  
5,500千人泊  
(2024年)

# 1 国際都市として発展する CHIBAの基盤づくり

- ・ 外国人観光客の受入環境の整備
- ・ MICEの誘致
- ・ 国際交流の推進



幕張メッセ周辺地域

# 2 国内外の誰もが訪れたいくなる 観光地づくり

- ・ 千葉ならではの資源を活用した新たな観光需要の開拓
- ・ 鉄道事業者やバス事業者等と連携した観光メニューづくり及び二次交通活用の仕組みづくり
- ・ 誰もが快適に過ごせるための環境の整備
- ・ 農山漁村の活性化に向けた地域資源の活用
- ・ 観光地へのアクセスを強化する道路整備の推進



菜の花といすみ鉄道

# 4 大学等との連携による地域への 若者の定着促進

- ・ 大学等卒業後の若者の定着支援
- ・ 医療・福祉・介護人材の確保と資質の向上
- ・ 地域を支える人材の育成



若者と一緒に考える地域活性化セミナー

# 3 居住地として選ばれる 千葉づくり

- ・ UIターン等の促進
- ・ 都心へのアクセス強化
- ・ 地域間のアクセス強化
- ・ 地元への愛着と誇りの醸成



千葉の暮らしやすさを紹介する「ちやうどいい千葉」

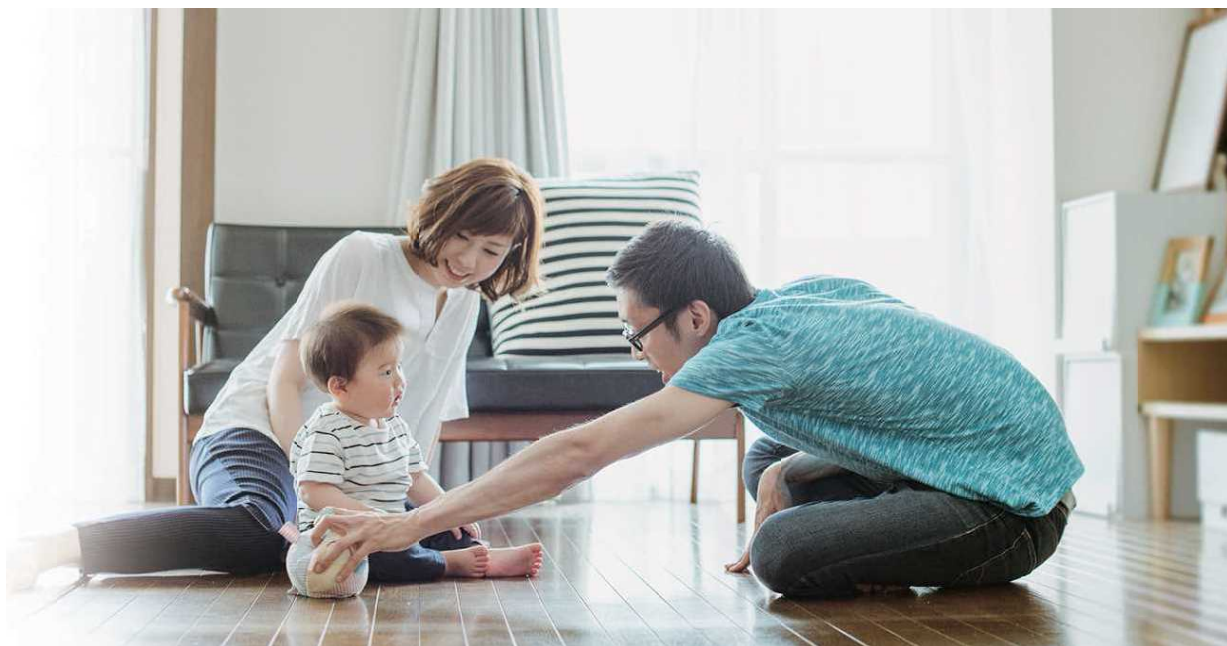
# 5 千葉の様々な魅力の 国内外への発信

- ・ 国内向け広報・魅力発信
- ・ 世界に向けた千葉の魅力発信
- ・ 戦略的な観光プロモーションの展開
- ・ 千葉ならではの多様な魅力の発信



佐原の大祭

## 子育てしやすい社会づくり



県民の結婚・子育ての希望を実現し、子どもたちが心身ともに健やかに生まれ育つためには、妊娠・出産・子育てに係る多様なニーズに応じて、誰もが安心して子どもを生み、育てられる環境をつくることが重要です。

このため、少子化に係る地域特性を踏まえた上で、妊娠・出産から子どもの自立までを総合的に支援するとともに、子育て世代の経済的な安定を確保することにより、少子化の流れを和らげ、次世代の千葉を担う子どもたちの成長を支えます。

### 【数値目標】



子どもを生み育てやすいと  
感じる家庭の割合

79.9%  
(2019年度)

▶ 80.0%以上  
(2024年度)

# 1 若者等の経済基盤の確保と子育てに係る経済的負担の軽減

- ・ 若者等の正規雇用の促進
- ・ 子育てに要する経済的負担の軽減



「ジョブカフェちば」での就労支援

# 2 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

- ・ 結婚から子育てまでの間の一貫した支援
- ・ 自らが望むライフデザイン設計の意識醸成
- ・ 妊娠に関する支援
- ・ 周産期及び小児救急医療体制の整備
- ・ 保育等の子育て支援体制の整備
- ・ 保育人材等の確保と資質の向上
- ・ 子どもの保健対策に関する支援
- ・ 児童虐待防止対策の充実
- ・ 企業・地域による支援体制及び協働体制の構築
- ・ 家庭教育への支援
- ・ 子どもや家庭に対する相談支援体制の充実



子育て家庭優待カード「チーパス」

# 3 働きながら生み育てやすい環境づくり

- ・ 働き方改革の推進
- ・ 男女が協力して子育てできる環境づくり
- ・ 女性が活躍しやすい環境づくり



# 4 地域を愛し世界で活躍できる子どもの育成

- ・ 地域を愛し地域を支える人材の育成
- ・ すべての子どもたちが質の高い教育を受けられる環境づくり
- ・ 学校の魅力の向上と改革の更なる推進
- ・ 学校における多様な教育活動を支援する体制づくり



地域支援者の協力によるディスカッション(市川市立下貝塚中学校)

# 誰もが 安心して暮らせる 地域づくり

県民が安心して暮らしていくためには、その地域の安全が守られていることや、緊急時に様々な支援が重層的に行われることが重要です。

このため、どのような災害からも、県民の生命・身体・財産を守り、被害が生じてもそれが最小限に食い止められるよう、自助・共助・公助が一体となり、地域防災力の向上を図るほか、新型コロナウイルスのような新たな感染症へも対応できる医療提供体制を整備していきます。

また、様々な価値観を持つ人が、本県の有する健康的な生活を支える多彩で新鮮な食材やスポーツに親しむ環境も生かしながら、地域で元気に安全で安心して暮らすことができるよう、高齢者等が健康で生き生きと暮らせる環境や、外国人県民と日本人県民が共に安心して暮らせる多文化共生社会づくりを進めるとともに、地域内外の多様な主体が地域を支える仕組みを整え、人口減少・少子高齢社会に対応した地域づくりを進めます。

### 【数値目標】



自主防災組織のカバー率

69.1%  
(2019年度)

▼  
84.1%  
(2024年度)



自分が住み慣れた地域で  
安心して受診できる医療体制に  
あると感じている県民の割合

65.8%  
(2019年度)

▼  
70.0%  
(2024年度)



高齢者施策について  
満足している県民の割合

22.8%  
(2019年度)

▼  
35.0%  
(2024年度)

# 1 安全に暮らせる地域づくり

- ・ 自助・共助・公助が一体となった地域防災力の向上
- ・ 災害に強い地域づくりの推進
- ・ 地域防犯力の向上



自主防災組織による防災訓練

# 3 地域コミュニティの再生と担い手づくり

- ・ 若者、高齢者、地元企業等の地域活動への参加促進
- ・ 地域活動を支える市民活動団体等の育成
- ・ 地域に関わる多様な主体による連携・協働の促進
- ・ 生涯学習社会を目指した取組の推進
- ・ 学校を核とした地域コミュニティの構築と子どもの学びへの支援

# 5 外国人県民と日本人県民が共に安心して暮らせる社会づくり

- ・ 多文化共生意識の醸成
- ・ 地域社会への参加促進
- ・ 生活環境の整備
- ・ 雇用・就労の促進



# 2 快適で暮らしやすいまちづくり

- ・ 公共施設の適正な維持管理
- ・ 空き家の利活用の促進
- ・ コンパクトなまちづくり
- ・ バリアフリー化の推進
- ・ 地域分散型エネルギーの推進

# 4 生涯を通じて健康で生き生きと暮らせる地域づくり

- ・ 地域医療・介護・福祉サービスの確保
- ・ 健康寿命の延伸
- ・ 生涯スポーツの推進
- ・ 高齢者への就労支援
- ・ 障害のある人への就労支援



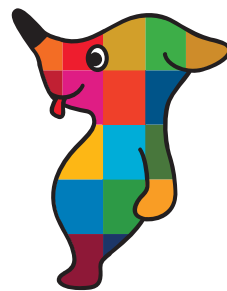
# 6 地域連携の強化

- ・ 県と市町村及び市町村間の連携強化
- ・ 隣接都県との連携強化

## 総合戦略の推進に当たって

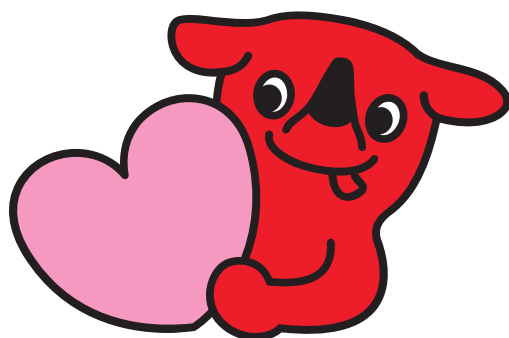
地方創生の推進に当たっては、SDGsの考え方を踏まえ、取組を加速していきます。

また、マネジメントサイクル(PDCA)を活用し、毎年度、取組状況を検証するとともに、その結果に基づき、必要な改善を次の施策展開に反映させます。



ちばSDGs





千葉県マスコットキャラクター チーバくん

令和3年3月発行

千葉県 総合企画部 政策企画課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

TEL:043-223-2483 FAX:043-225-4467

DTP制作・印刷:株式会社オニオン新聞社

第2期千葉県地方創生総合戦略の詳しい情報は  
千葉県ホームページに掲載しています。



<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/chihouseisei/dai2ki-senryaku.html>